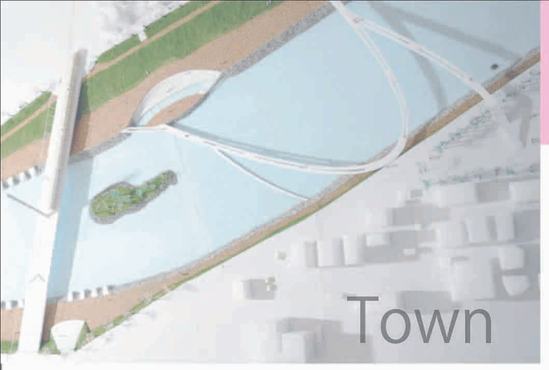
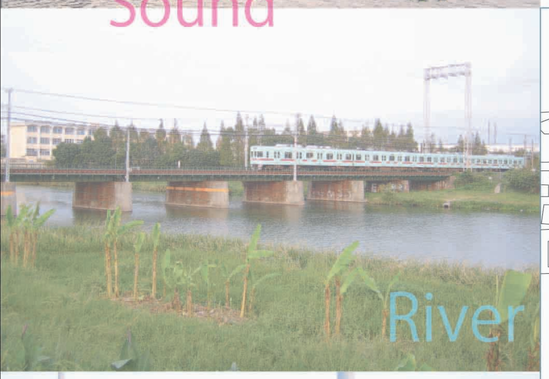
bloom ～音が咲かせる街の華～

Fukuoka University
Landscape and Community Design Lab.





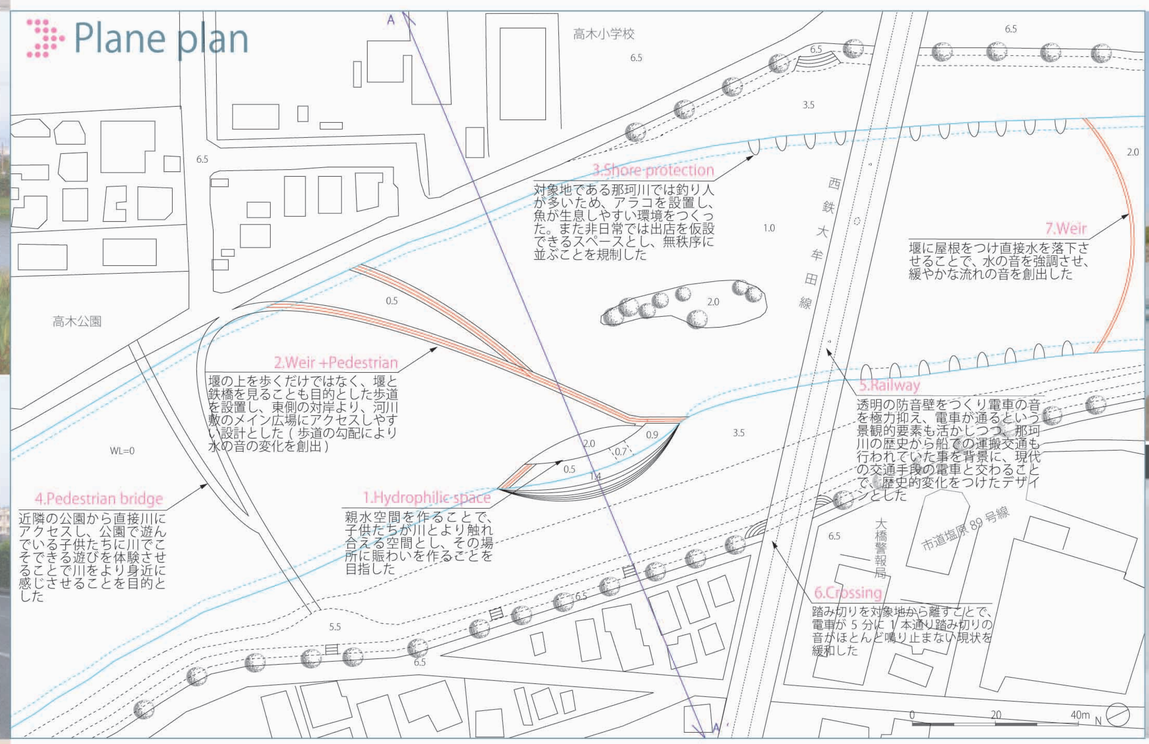
Design concept

景観工学では視覚的要素ばかりが大きく捉えられているが、聴覚は美しい景観を感じる要素として重要である。また親しみのある音が存在する空間は、人々に景観を美しく感じさせる。
かつて、川にはせせらぎや鳥や虫の音が聴こえ、人が集まりにぎやかな時間や川の流れを感じるゆとりのある時間があった。しかし、近年では道路沿いに柵が設けられるなどの疎水性の高い整備が行われており、川は周辺住民にとって身近なものと感じづらく、子供たちも川と触れ合える機会を失いつつある。
本提案の対象地である那珂川でも、安全面ばかりを考えたハード整備が進み、川を電車が横切りかなりの頻度で踏み切りの音が鳴り響く。
この現況を那珂川周辺の住民にとって『心地よい音』、『心地よい空間』、にしていくことで、まちの人々がかつてのように川を身近に感じ、『心地よい街』になることを目指し、現状を活かした親水性の高いまちとして利用することを提案する。

Object ground

那珂川町から博多港へと注ぐ、第二級河川の那珂川。その中でもあらゆる教育施設が揃い、福岡の都心部から程近い福岡市南区大橋地区を対象地とした。
対象地の最寄り駅である西鉄電車大橋駅での降車量は都市部の福岡天神駅に次ぐ２位であるという立地にも関らず那珂川の開発は進んでいるとは言いがたい。
また、小学校から対岸に渡るには国道沿いの歩道を渡る、という周辺住民の動線の認識も安全面において問題となっている。
南区は対象地を区のベストビューポイントとして押しているにも関わらず、那珂川沿いの道路には柵が設けられ、周辺の住民はなかなか水辺を身近に感じることが出来ない。

Plane plan



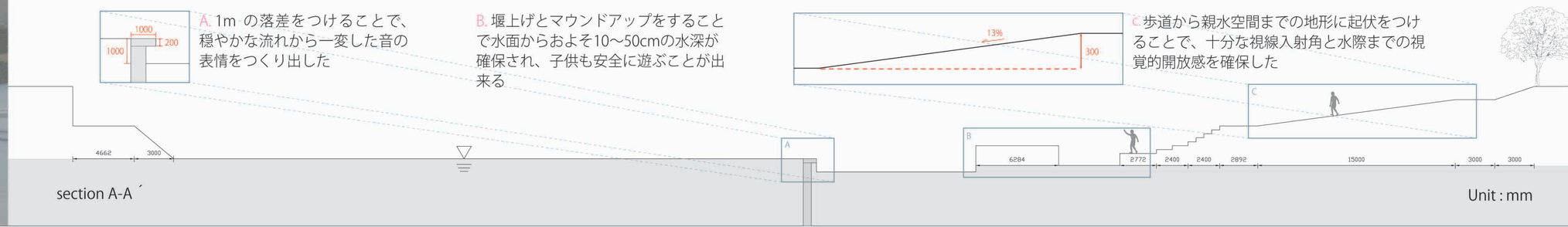
View

1. 親水空間全景

2. 電車内より歩道橋を望む

3. アラコに並ぶ出店

4. 公園脇より歩道橋を望む

5. 鉄道橋全景

Cross section